



PPN9

第9回 西アジア新石器時代石器研究国際会議

2019年11月12～16日、東京

第1サーキュラー

このたび、第9回西アジア新石器時代石器研究国際会議（PPN9）が、東京大学総合研究博物館を会場として2019年11月12～16日に東京で開催されることとなりました。この会議は1994年、ハンス・ゲーベル、ステファン・コズロフスキー両博士の提唱のもと初めてベルリンで開催されて以降、今日まで西アジアの新石器研究者にとって最も重要な国際的研究会議の一つとなっています。西アジアからは遠く離れていると言いながら、今や日本でも西アジア新石器研究者は少なくありません。今回、日本が東アジアで初めての同会議開催地に決まりましたことは光栄なことです。

PPN9 東京の主たる目的は、西アジア新石器時代の石器研究に関する最新成果を、発掘調査、出土遺物分析、理論的考察などをもとに議論する場を提供することにあります。この点は、これまでと変わりありません。同時に、昨今の一般的研究傾向、開催地たる日本の地理的条件、さらには主催者の関心も考慮にいれ、西アジアより東にある地域（イランや中央アジア）の新石器化問題を取り上げるセッションを計画しています。ここ数年、かつての研究先端地域、レヴァント以外の地域での研究が盛んとなっており、前回のキプロス大会（PPN8）でも、その開催地固有性を活かして開催された島嶼部新石器化に関するセッションが成功を収めています。このように周縁からの視点は、社会経済的転換において重要な役割を果たした核地域であるレヴァント地方の研究にも大きく貢献し、かつ、西アジア新石器時代についてのよりバランスの取れた解釈にもつながるはずで、このようなセッションに加えて、PPN9 東京では以下のようなセッションの開催も想定しています。さらには、石器分析に関連する限り、それ以外のセッションの提案も受け付ける予定です。

- ・ 動作連鎖理論をこえる新石器時代石器分析への方法論
- ・ 新石器時代の社会文化的ダイナミズム

- ・「肥沃な三日月地帯」の外側における新石器化プロセス
- ・新石器時代における押圧剥離技術の導入と発展
- ・最新の発掘成果
- ・その他

会期中、博物館や遺跡の見学、日本のチームが西アジアで発掘した石器遺物のハンズオン展示も開催します。参加を希望する方は、2018年11月30日までに下記のリンクから予備登録して下さるようお願いします。

<https://goo.gl/forms/vNt5AIMoHUFMB0ys2>

登録する際には、プログラムや予算の計画を立てるため、参加者の経歴、暫定的な口頭・ポスター発表タイトル、宿泊についての希望調査などに回答いただきます。

発表の採否、発表要旨の提出については、後日連絡いたします。参加費、懇親会などの情報、会場の詳細については、次回サーキュラー（2019年2月を予定）にてお知らせいたします。質問があれば、PPN9東京実行委員会までお問い合わせください。

ppn9tokyo@gmail.com

なお、関係各所にもこのサーキュラーを回覧していただけますと幸いです。

多くの方のご参加をお待ちしております。

西秋良宏
有村 誠
藤井純夫
前田 修
 拝

PPN9 東京実行委員会

安倍雅史（東京文化財研究所）、赤司千恵（東京大学）、有村誠（東海大学）、藤井純夫（金沢大学）、門脇誠二（名古屋大学）、前田修（筑波大学）、西秋良宏（東京大学）、小高敬寛（東京大学）